

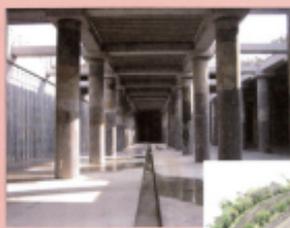


**ジーアンドエスエンジニアリング**

T 812-0007 福岡県福岡市博多区東比治3-24-9

Tel.002-481-2800

<http://www.gand.co.jp/>



山王公園地下貯水施設(福岡市)



八丁倉庫新築プロジェクト(福岡市) [2014年度]設計



もみぎ浜(戸崎マリア大橋) (福岡市) 設計



東京都建設局  
 から局長賞を受賞  
 連続受賞

## ＝東京都建設局から2年連続で局長賞を受賞＝ 次世代を担う人材育成に注力し 使命感を持って“変革”に挑戦する



伊和 久 社長

九州と首都圏で事業展開する建設コンサルタントの地場大手、ジーアンドエスエンジニアリング(福岡市、伊和久社長)は都市インフラの道路や河川、橋梁などの構造物の設計を官公庁から直接請け負い、数多くの実績を残している。創業から43年を迎える同社は昨年、伊和久氏が新たに社長に就任。事業環境を取り巻く変化を受け入れ、若い世代を中心とした戦力で建設コンサルタントの潜在力を追求し、従来の枠組みにとられない発想で変革期を乗り切りたいとしている。

### 地場トップクラス誇る 圧倒的な受注力と実績

同社は1973(昭和48)年に建設コンサルタントとして設立され、都市インフラとごみ処理など、道路、橋梁などの調査・設計・監理や上下水道、河川、砂防、海岸などの調査・設計、調査、地質調査など、元請け事業者として公共事業に注力し、さまざまな設計・調査を手掛けてきた。建設コンサルタントとしては地場トップクラスで、九州を中心に年間約500件に

も上るプロジェクトを受注しており、こうした圧倒的な受注力により優秀な実績を誇る。例えは防災関連では、福岡市の山王公園雨水調整池の設計が上げられる。これは地神神社のような異空間がアトリビオなびたびたの話題になったり、ゲリラ豪雨などによる水害の脅威から都市機能を守るために造られた調整池で、貯水量は約3万立方メートル。近年、福岡市内を流れる御笠川が氾濫し、博多駅周辺が水没するなど甚大な被害を受けた。2014年に新築された緊急浸水対策事業の画題として発注された設計業務を受注し、この実績を受けて福岡県各市でも同規模の地下調整池の設計を受注している。

このほか、変わったところでは北九州市のJ小倉駅新幹線口にあるペダストリアンデッキ(空中回廊)の計画設計なども手掛けている。歩道の幅員は太陽光発電のパネルが設置されており、そこで発電した電力は、歩道の動力として使用されている。環境都市のイメージを具現化したアイデアだといえる。

そんな伊和久氏が取り巻く新しい環境は、福岡市で発注の「都市倉庫移動式水素ステーション」(都市倉庫設計業務委託)である。福岡には標準的な「福岡水素ステーション」を立ち上げるなど、全国に先駆けて水素ステーションの整備や燃料電池自動車、バスなどの運行実証で、水素関連技術の集約・商業育成を進めている。先々福岡県で全国初となる移動式水素ステーションの整備が決まり、同社が受注した。実はこの仕事に応募する際、同社でも未経験であることから社内で複数回面談があったという。伊和社長は「誰もつたことがない」とをやることに価値がある。建設コンサルという従来の枠組みから外れているのでは今後成長はない」と話し、ダーウィンの進化論になぞらえて「将来も生き残っていくには変わる意識が中心」と力を込める。

また、この時には「明確、技術者のリストラをせずに乗り切った」として評価されたことがある。伊和社長は「人材は会社の柱。社員は世代交代の時期であり、ベテランの技術者が持つ経験やノウハウを若手に継承させていかなくてはならない。若手も積極的に採用し、若手の融合を成長の原動力としたいと考えた。」

### 福岡県で初の移動式水素ステーション設計

### 積極的な技術継承で経験と若手を融合する

伊和社長はなぜ「変化」にこだわるか。実は同社長は若手の登